

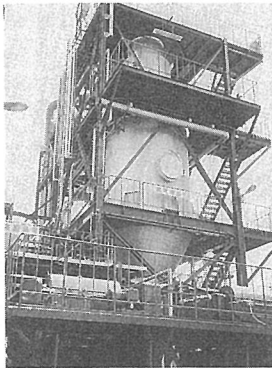
### 『新設 大型焼却炉稼働』

#### 豊田ケミカルエンジニアリング(株)

全国最大級の産業廃棄物処理業、豊田ケミカルエンジニアリング(株)(本社：名古屋市、半田工場：半田市日東町1番30、☎0569-22-5028、後藤公男社長)が、年々急カーブを描き増大する産業廃棄物を処理すべく、半田工場に大型焼却炉の3号炉を新設。去る8月4日より運転を開始しています。

#### 処理能力倍増 大型焼却炉

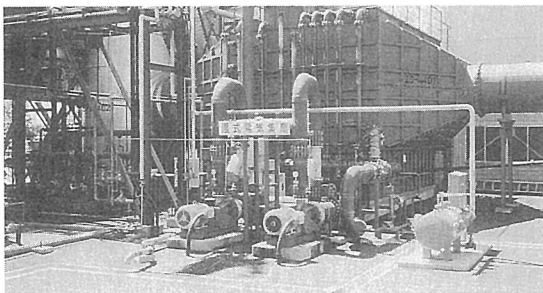
処理能力は年9万トン、従来の1号炉(処理能力/年3万トン)、2号炉(処理能力/年4万5千トン)を合わせた総処理能力を上回る実力を持つ。ただし1号炉は、3号炉が本格稼働する段階において破棄される予定である。2号炉と3号炉の



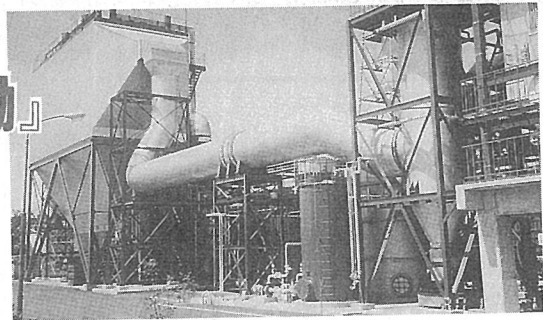
廃液焼却炉

総処理能力を合わせると年に13万5千トンとなり、ほぼ倍増に近い処理能力アップになります。これは、産業廃棄物の安定した大量処理を実現する上で心強い出来事といえます。3号炉の特徴は、その処理能力にあることは先に述べましたが、その他に排ガス浄化施設を従来に比べさらに強化したことが特筆されます。乾式電気集塵機とともに湿式電気集塵機(イオンスクラバー)を導入し、今までに処理が困難であった極微小なばいじんを回収することが可能になりました。環境保全に対する関心の高まりに呼応した措置といえます。

同社は廃液焼却を行う全国でも限られた企業と



湿式電気集塵機(イオンスクラバー)

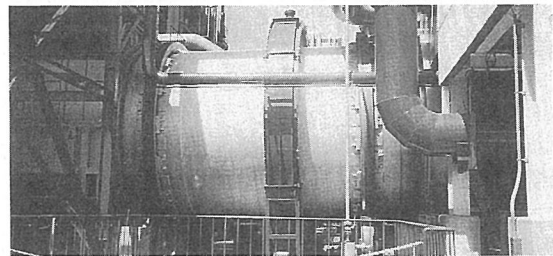


しても知られています。3号炉では、焼却設備を汚泥や油泥、固形物用と廃液用に分け、それぞれ焼却するという方式を採用。廃液は、燃焼カロリーの高い汚泥や油泥等の焼却時に出る廃熱を利用し焼却するなど、炉内で発生する熱エネルギーを効率よく回収しています。さらに廃熱はスチームとして回収し、スチームタービンで誘引ファンの動力源として活用されています。

#### 愛知県を中心に東海地区で活躍

同社は汚泥、廃油、プラスチック類など13種類に及ぶ廃棄物を取扱っている。平成2年より医療廃棄物処理も手掛け、県内の約200カ所の病院から注射針などを回収。専用のプラスチック容器ごと焼却を行っています。

また、環境保全企業であるという認識のもと、推進してきた無災害記録は2300日を突破し、ます



汚泥、キルン等の焼却炉。800~900度で焼却。

ます廃棄物の適正処理に意欲を燃やしている。今後、資源の有効利用面から、リサイクル事業のウエイトを高めていく方針ともいう。現在も行っている、潤滑油再生、有機溶剤蒸留再生はもとより、勸クリン・ジャパン・センターとの協力事業である有機系産業廃棄物を乾留熱分解し燃料油や金属回収を行う『乾留再資源化プラント』、有機汚泥等を有機肥料化する『コンポスト化プラント』など、リサイクル事業を一層推し進め、産業廃棄物を総合的に処理できる企業体をめざしたいとしている。